

ワークショップWS-6 認定技師の生涯教育

小林 浩

東京慈恵会医科大学 環境保健医学講座

治療技術や医療機器の進歩に伴い、量・質ともに臨床工学関連の業務は多様化の一途を辿り、新たな臨床工学の知識、技能の質的向上が要求される。特に高気圧酸素治療は、生体機能代行機器を駆使して治療の一端を担う業務であるため、治療技師の責務は以前と比べ格段と重要性が増してきている。

本学会では2002年から教育集会を通じ、治療技師他に対し、高気圧酸素治療に関する最新知識の普及を図ってきているが、教育集会への参加が認定技師受験資格要件となっているため、研修内容に偏りが生じている、との意見もあり、新たな仕組みを求め声がある。

第44回本学会学術総会における松田の報告では、認定技師らへのアンケート調査の結果、教育集会の改善と、技師に知識の吸収と実際の業務に即した経験を共有する機会とレベルアップを求めている。また、前年の第43回学術総会では、阿部らは、認定技師の勤務部門・配置転換による「現任者」の継続が困難であると報告をしている。さらに、教育集会の開催が、事務局の諸事情を鑑み、東京でのみ実施されているため、地方在勤者の場合、旅費・受講費用の負担、HBO操作代行者の手配、日程調整等の受講者側の負担が大きいなどの意見があり、地方での開催が所望されている。

こういった背景から、高気圧酸素治療に携わる治療技師に対し、生涯教育の制度を立ち上げ、最新医療のみならず関連する事項を教授する場を設け、資質の向上に努めることを目的に組織的に援助すること、地方での教育の機会を設ける構想がある。

生涯教育において想定される教育案として、現行の教育集会を細分化し単位制をとり、自然科学、臨床医学の基礎等の基礎教科と医療機器、生体検査、HBO適応疾患と治療、高気圧障害の予防と治療、関連法規等の専門教科などで編成する。さらに、受講による必須単位は、教育集会への参加のみならず、

本学会学術総会・地方会、安全協会主催研修会、関連学会等への参加や学会発表、論文発表によるポイント制の導入も考える必要がある(図1, 2)。これらの教育の必須単位取得と審査により認定技師に対しインセンティブとして上位認定資格、例えば指導技師、専門技師などの呼称も可能ではないかと思われる。この構想を実現するためには、教育委員会と試験委員会との間で整合をとりつつ、生涯教育研修委員会を設置し、「臨床高気圧治療技師生涯教育研修制度ガイドライン」の策定を行い運営する必要があると考える(図3)。

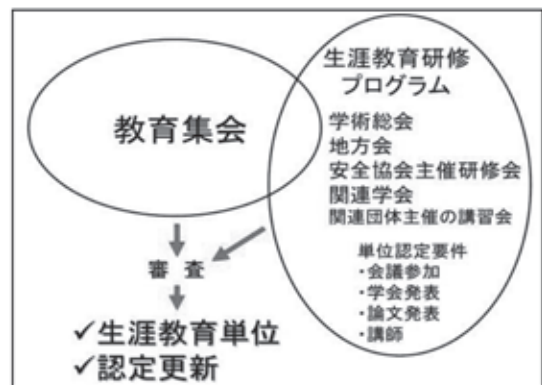


図1 生涯教育研修プログラムと教育集会

生涯教育のプログラム(案)	
基礎科目	専門科目
自然科学 ex.分子生物学 臨床医学の基礎 ex.最新の治療技術 等	医療機器 生体検査 HBO適応疾患・治療 高気圧障害の予防・治療 関連法規 等

>単位取得科目を規定
 >生涯教育受講手帳を作成
 >取得単位を受講シール貼付で証明
 >更新の際に受講手帳の提出で更新

図2 生涯教育のプログラム案

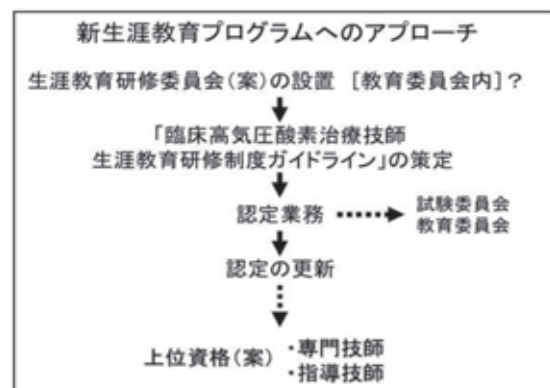


図3 新生涯教育プログラムへのアプローチ